

英雄

Hancomsime

March 2026 No.423

巻頭記事

次年度会長決定！／先輩OBよりのお祝いと激励

1月新年例会賀詞交歓会開催／1月新年例会を終えて／51期委員会紹介(総務委員会)

2月例会開催／2月例会を終えて／51期委員会紹介(政治行政委員会)

ビジネス交流会開催しました／トリアスロン実行委員長・部長決定！／卒会者より／編集後記

◆発行先:鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 住 真介 ◆編集責任者:担当副会長 仲佐 大志 ◆制作・編集・発行:地域の力委員会 委員長 川口 慎司

次年度会長決定！山内 正樹

次年度会長プロフィール

【所属企業】	有限会社サンコービルド 代表取締役
【入会年度】	平成26年7月(平成26年度)
【中央会経歴】	平成27年度 副委員長
	平成28年度 会員拡大プロジェクトリーダー
	平成29年度 会員拡大担当理事
	平成30年度 委員長
	令和1年度 県出向理事
	令和2年度 委員長
	令和5年度 専務理事
	令和6年度 副会長
	令和7年度 監事

この度、鳥取県西部中小企業青年中央会第52期会長にご承認いただきました山内正樹と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

住会長より次年度会長のお声かけを以降、重責を感じる日々を過ごしてまいりましたが、2月16日の臨時総会において皆様から「異議なし」と力強く背中を押していただき、改めて使命感を胸に刻むことができました。先輩方が「英知・友愛・団結」の綱領のもと51年繋ぎ紡いでこられた歴史は現在の会の強み・深みとなっていると実感いたします。その歴史に敬意を持つとともに、現在の活動に誇りを持ち続けられるよう、会員の皆様と協力し歩みを進めていく所存です。

51期の活動も後半戦に入りました。住会長が掲げられた「英雄」を体現できるよう全力を尽くし活動して参ります。今後ともご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



先輩OBよりのお祝いと激励

第46期会長 高塚 康治 (株式会社富士オートメーション 代表取締役社長)

山内次年度会長、承認おめでとうございます。46期コロナ禍、総務委員長として支えてくれ、あれからもう5年ですか。その間も会の重責を担ってこられたついに会長ですね。中央会の会長は会社の社長にも例えられますが、それも少し違う、不思議な立場です。思い通りにいかないこともたくさんあります。だからこそ、みんなで悩んで決めて前に進めていけるものだと思います。7月に向けたたくさん悩まれることでしょうか。生まればたくさんの同志が後押ししてくれあつという間にバトンタッチ。会員も減少し難しい舵取りだとは思いますが、正樹ならできる、自信をもって頑張ってください！ 奥さんもお大事にね。

第48期会長 高井 賢一 (株式会社 AND ONE 代表取締役)

山内さん、次年度会長ご承認おめでとうございます！一報を聞き、「いよいよ山内年度が始まるのだ」と胸が躍りました。情熱的で義理堅く、理屈よりも気持ちで真っすぐ進む姿は、入会当初から強く印象に残っています。第44期で委員長を務められた際の役員会での説明も、まさに“気持ち全開”で(笑)、担当副会長として内心ハラハラしつつも、その熱量に何度も心を動かされました。熱さの中にある繊細さも、山内さんの大きな魅力です。これまで12年間、多くの人を支えてこられた山内さん。今度は皆に支えられる番です。その人柄で会員に寄り添い、力強く導きつつ、何より一年間を思いきり楽しんでください。

第52期が山内会長のリーダーシップで輝く一年となることを、心から楽しみにしています！

1月新年例会賀詞交歓会開催



令和8年1月15日、ANAクラウンプラザホテル米子にて1月新年例会賀詞交歓会が開催された。新年を迎えた喜びを共有し、交流を深めるべく、総務委員会担当のもと様々な企画が立てられ、今期のスローガン「英雄」のもと第51期の後半戦を華々しくスタートすべく、ご来賓、OB会員、現役会員が一堂に会して行われた。

冒頭の住会長挨拶では、ご参会されたご来賓やOB会員の皆様へ日頃の感謝と御礼の言葉が伝えられた。また、今年度のスローガンとテーマ、これまで開催された事業の活動報告が行われ、西部青年中央会として学びと成長がしっかりとできる場にしていきたいと決意を述べられた。

続いて来賓挨拶では鳥取県団体中央会の岩崎会長より、OB会長挨拶では福田OB会長よりご挨拶をいただいた。

鏡開きが行われた後、伊木米子市長より「午年年なので、しっかりと駆け抜けていきましょう」と乾杯のご挨拶をいただき、賀詞交歓会はスタートした。

乾杯の後、スペシャルビュッフェとしてステージ横にてマグロの解体ショーが行われた。ANAクラウンプラザホテル米子の料理長らによって捌かれたマグロは、そのまま刺身や寿司として提供され、さらにステーキの実演も行われるなど、「見て・食べて・楽しい」アトラクションとなった。

歓談の後には、山陰で活躍されているエレクーン奏者のほりび氏による演奏が披露され、宇宙戦艦ヤマトやルパン三世の曲など、会場を華やかに彩る素晴らしい演奏であった。

会の終盤では、新年例会恒例の新入会員6名によるアトラクションとして獅子舞演舞が行われた。非常に迫力のある演舞であり、それを引き立てる笛や太鼓などの演奏も会場を大いに盛り上げ、盛況のうちにアトラクションを終え、新入会員挨拶へと移った。

盛会の中、最後は舞立参議院議員による中締めが行われ、「皆様の会社が末永く繁盛することを祈念する」とのご挨拶をいただき、新年賀詞交歓会は閉会となった。（記事：渡邊）



1月新年例会を終えて

総務委員会 委員長 長谷川 恵一 (HASEGAWA テクニカ(株) 取締役専務)

1月15日に開催いたしました、新年例会賀詞交歓会が盛大に開催できたこと、御礼申し上げます。ご来賓 14 名、OB 会員 46 名と多数の皆様方に花を添えていただき、誠にありがとうございました。

アトラクションではマグロ解体ショーを行い、見て食べて楽しい時間をお作りいただきました。新入会員の皆様もまた、約2ヶ月間の練習の成果を発揮された素晴らしい獅子舞演舞をありがとうございました。皆様のご協力あってこそその大盛会だったと、改めて感じております。

51期後半もあと6ヶ月弱、元気に前向きに突っ走っていきます!

51期委員会紹介 各委員会がそれぞれ独自に記事を作成しました!



総務委員会

今期、総務委員会では「うれしい、楽しい、嫌いじゃない」を活動テーマとさせていただいています。

委員会メンバーにまずは中央会を楽しんでほしい、「今日は委員会だな、行こうかな」くらいのモチベーションでいいので継続して参加してほしい、そんな気持ちで活動テーマを考えました。会に対する率直な意見や気持ちを若手会員中心に発言してもらい、ベテラン会員を中心にアンサーしつつ全体で議論する「中央会の未来を考える」会議を行いました。世代間格差がありつつも、先輩たちからの教えなどを若手会員も噛みしめ、新しい風をベテラン会員に感じてもらえたと思います。ほかにも皆が知らない業界話を発表する「10分間プレゼン」も継続中です。緩く楽しく、引き締めるときはしっかりと。最後の懇親会の出席率が1年間の点数かなーと最近考えています。残り数か月、みんなで楽しく活動していきます。



2月例会開催

『政治を語る～基礎知識の向上と未来の選択～』



令和8年2月16日、政治行政委員会担当により、2月例会がANA クラウンプラザホテル米子にて開催された。

冒頭の住会長挨拶では、1月に開催されたビジネス交流会が盛会であったこと、そこで築かれた人脈を今後も大切に、それぞれの事業発展につなげてほしいと呼びかけられた。また、今回のテーマである政治は私たちの生活や家族にとって重要なものである、政治を学び、自ら考え、主体的に行動へ移してほしいと述べられた。



安達監事第一子お祝いの後、臨時総会が開催され、第52期の会長として、山内正樹会員が推薦され、満場一致で可決承認された。今回の委員長タイムはビジネス経営委員会 景山委員長。「キャッチコピーの世界」について、クイズを交えながら面白く紹介し、会場を大いに盛り上げた。



例会では、第一部では、湯原俊二OBのビデオ出演を交えながら、野口浩一会員より政治の基礎について分かりやすい説明が行われた。第二部では疑似国会を開催。テーマとなった法案は「会則第6条一部修正案 卒会年齢を45歳から50歳へ引き上げ法案」。現状の会員減少問題に直結する重要な議題であった。会員は3つの政党に分かれ、法案提出から委員会での審議、政党間交渉、そして本会議での採決に至るまでの一連の流れを体験した。政党間で白熱した議論が交わされ、立場の違いを超えて合意形成の難しさを実感。公約に関心を持ち、自分の考え方に近い政治家や政党を選ぶことの重要性を改めて認識した例会となった。



(記事：石井)

2月例会を終えて

政治行政委員会 委員長 児玉 誠博 (㈱イーサポート 代表取締役)

この度の例会では、「政治」について関心を高め、積極的に語れるようになる為の一步として、当会 OB でもいらっしゃる湯原俊二様より、ビデオ講演にてお話を伺いました。続く第2部では、学んだ知識を基に「疑似国会開催」と題し法案可決までのプロセスを体験していただきました。今回を機に、より政治にフォーカスした例会が開催される事を願っております。ご参加いただいた皆様ありがとうございました!

51期委員会紹介 各委員会がそれぞれ独自に記事を作成しました!

政治行政委員会

我々、政治行政委員会では委員会活動として、委員会セミナー(勉強会)を開催しました。委員会メンバーをAチーム、Bチームの2チームに分け、役割を分担し、調査・発表を行いました。

11月はBチームが発表を行い、テーマを「ふるさと納税について」とし、ふるさと納税の始め方から利用することにより得られるメリットなど、ふるさと納税についての知識を深める事ができました。また、知っているものの利用していない会員へも本セミナーを通して興味をもていただく事ができました。

12月はAチームが発表を行い、テーマを「外国人雇用の実情について」とし、外国人雇用の現状や、在留資格の種類、採用方法や支援補助金制度など専門的な部分まで調査・発表を行っていただきました。また、言語の違いによるコミュニケーションの難しさや、文化の違いなど、会員企業の実体験を基にした貴重な話を伺う事ができました。

この度の「委員会セミナー」を通して、日頃関心の薄い事柄は自ら積極的に調べたりすることは少ないと思いますが、テーマを決め発表していただくことで、新たな視野や知識を深める事ができたと感じました。今後、今回の勉強会で得た知識や、調査・発表のスキルを業務に生かしていきたいと思ひます。



ビジネス交流会開催しました



令和8年1月30日(金)、KASANE YONAGOにおいて、大江特命担当理事肝いりのビジネス交流会～地域をつなぐ中小企業の輪～が開催されました。本例会は当会会員だけでなく、広く鳥取県西部地域の中小企業経営者・幹部層を招き、業種を超えた交流を行うことで、将来の鳥取県西部の活性化などを目的としたものです。

当日は、飲食、金融、小売、IT、製造、建築・不動産等さまざまな企業・事業者から、そして遠くは福岡から、総勢約100名の大規模な交流会となりました。

冒頭の住会長の挨拶を皮切りに、参加者がそれぞれのテーブルごとやテーブルを超えての交流が行われ、会場中どこでも終始熱気を帯びた会話が繰り広げられていました。また、うち6社が企業のPRプレゼンや、7社が企業ブースからそれぞれの事業を参加者に試供等が行われ、会場のいたるところが盛況でした。さらに参加者の心を打ったのは会場となるKASANE YONAGO様のおいしい料理の数々。当日はその場で調理して提供もしていただき、料理を求める列もできていました。

交流会終了時には名残惜しそうな空気とともに熱気の余韻が残っており、交流だけでなく当会を広く知ってもらう良い機会となりました。

(記事：小原)



実行委員長
安達 信彦

トライアスロン実行委員長・部長決定!

今年も7月19日に開催されます第44回全日本トライアスロン皆生大会ですが、昨年に引き続き、当会トライアスロン実行委員長を務めさせていただきます。昨年に引き続き酷暑対策や選手の高齢化対策が検討され、今大会ではマラソンコースの一部短縮が図られます。

過酷な状況は選手だけでなく参加されるボランティアの皆さん、そして、運営に携わる当会会員も同様です。各部の運営方法にも改善方法を検討しながら、地域の皆さんと協力しながら大会を作り上げていきたいと思っております。昨年共催へと立場も変わり、この先の大会に対しても継続した関わり方を続けていく為にも、一層のお力添えを宜しくお願い致します。



ボランティア部長 藤原 直之

第44回全日本トライアスロン皆生大会のボランティア部長を拝命しました藤原です。ボランティア部員としてまだ経験が浅い私ですが、全身全霊で取り組んでいこうと思っております。当会の会員減少に伴い、ボランティア部の仕組みややり方を検討する変革期でもあると思います。今後に向けて、経験が浅い方でも担っていただくことができるような仕組み作りも並行して取り組めますので、どうぞ皆様のお力添えをよろしく宜しくお願い致します。



マラソン部長 安藤 睦男

歴史ある全日本トライアスロン皆生大会のマラソン部長として、大会を支える一員になれることを大変光栄に思います。選手の皆さんが安心して競技に集中できるよう、与えられた役割に責任を持ち、周囲と連携しながら行動していきます。暑さや忙しさの中でも、笑顔と気配りを忘れず、感謝の気持ちを持って大会運営に貢献したいです。一日が最高の大会だったと思っただけのよう、最後まで全力で取り組みます。



AS部長 野口 健太郎

この度、AS部長を拝命いたしました野口です。今年は、部長として大会に携わり選手の皆さんが無事にゴールできるよう精いっぱい応援したいと思います。事前準備も当日も暑い日になると思いますが、とてもやりがいのある事業だと感じています。ボランティアに参加していただく方々とオール中央会で大会を盛り上げて、大成功で終えられるよう皆様のご協力をお願いいたします。



卒会予定者より『全身全霊のその先へ』

平成29年2月(第42期)入会 安達 信彦 (㈱平設計 設計課長)

第42期2月に入会し、長いようで短いような9年半を過ごさせて頂きました。最初に所属しました匠委員会にて、『委員会、例会には必ず参加する』、『何か頼まれた時にははいと答える』という事を叩きこまれた事で、多くの役を受け、入会当初は想像もしていないくらい多くの事を経験出来ました。特に第46期に継続実行委員会の委員長を引き受けた為か、『皆生トライアスロン』と『お地蔵さまフェスティバル』の二つの継続事業の実行委員長を経験し、継続事業と長く深く関わる事になるとは思いもしませんでした。

継続事業はこれまで積み重ねてきた先輩方の想いとこれからを担う後輩たちの想いを繋いでいく事業であり、時代に合わせて変化を重ねていく事業だと思います。実行委員長、部長、担当副会長など色々な役割でこの二つの事業と向き合ってきましたが、その都度多くの意見がぶつかり、大変な思いもしてきました。それでもより良いものを作り上げたいという考えのもとに議論を重ねることが重要であり、中央会の活動を通して得ていくものだと思います。色々引き受けすぎて大変な時期もありましたが、多くの方に助けて頂いて卒会を迎えることが出来ます。本当にありがとうございました。

編集後記

編集後記の文字数 100 文字程度だとしてご存じでしょうか? その文字数で何を伝えられるのか葛藤する。高杉晋作の辞世の句「おもしろき こともなき世を おもしろく」 たったの 17 文字。色々伝えたい事があっても削ぎ落せば本質に辿り着くのだろうか。
(発信・地域の力委員会 渡邊)